

近藤邦成

目的 毛髪に対して使用される種々の化粧品の効果と影響について、系統的な研究を試みているが、本報では、オ1報のリンス剤に引き続き、各種シャンプー剤の毛髪への影響を、物理的、形態学的な面から検討を行なった。

方法 市販シャンプー剤の主成分として使用されている各種の界面活性剤(陰イオン性界面活性剤4種, 非イオン性界面活性剤1種, 両性イオン性界面活性剤1種)及びその市販製品であるシャンプー5種を用いて、処理濃度, 温度及び時間を変えてシャンプー処理した18~30歳の女性5名の毛髪を, それぞれ光学及び走査型電子顕微鏡で観察を行ない, 同時にテンシロンを用いて毛髪の伸度と強度を測定した。

結果 処理濃度, 温度及び時間を変えてシャンプー処理した毛髪の伸度, 強度は, 対照とした未処理及び水処理の毛髪の場合と殆んど差がなく, 又顕微鏡による観察の結果においても何ら変化は認められなかった。

従って, シャンプーの使用による毛髪に対する影響はなく, 毛髪の清潔のためにシャンプーする事が必要である。